

小城市立岩松小学校
学校だより 第22号



岩松小だより

令和7年9月26日発行
発行者 校長 真子靖弘

守るから考えるへ。デジタル時代の新習慣

スマートフォンやSNSは、私たちの生活を豊かにしてくれる便利な道具です。しかし、その使い方によっては、子どもたちの心身の健康に大きな影響を及ぼすことも、私たちは知っています。



昨年11月、オーストラリアではSNS運営企業に厳しい責任を求める法律が成立し、今週22日には豊明市でも各家庭でのルール作りを促す条例が可決されました。これらは、遠く離れた場所で、異なるアプローチを取りながらも、共通の強いメッセージを発信しています。それは「子どもたちをデジタル社会の光と影から守りたい」という願いです。

オーストラリアの法律が企業に責任を求める「公」のアプローチだとすれば、豊明市の条例は家庭という「私」の場で話し合いを促すものです。どちらも、子どもたちの健やかな成長を願う大人たちの想いが形になったのだと受け止めています。



AIをはじめデジタル社会の進化は速く、これからも新しい技術が次々と登場してくるでしょう。だからこそ、子どもたちが自ら賢く判断する力を育むことが、ますます重要になってきます。

これを機に、ご家庭で改めてスマートフォンやSNSなどの使い方について話し合ってみてはいかがでしょうか。「何のために使うのか」「いつ使うのか」「誰と使うのか」などを親子で確認し合うことで、デジタル社会を賢く、そして安全に生き抜く力が育まれます。学校でも今後も情報モラル教育に力を入れています。子どもたちの未来のため、私たち大人が一歩踏み出し、共に考えていきましょう。



運動会実行委員会

いよいよ、運動会実行委員会が本格的にスタートしました。22日から始まった実行委員会では、自己紹介や役割分担、大会スローガン決めなど、早速活発な話し合いが行われ、素晴らしいスタートを切ることができています。スローガンは次号で紹介します。

地域ボランティア

5年生の家庭科の授業では、9月の第2週から第4週にかけて、地域ボランティアの皆様にもミシン指導のお手伝いをお願いいたしました。毎週1回、合計6時間にわたり、3～4名の方にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。



最近、ご家庭でミシンを扱う経験がない子どもたちが多く、授業ではミシンの操作に戸惑う姿も見受けられました。そのような中、ボランティアの皆様が、一人ひとりの子どもに寄り添い、根気強く丁寧に指導してくださったおかげで、子どもたちは安心してエプロンづくりに取り組むことができました。笑顔で完成したエプロンを誇らしげに見せてくれる子どもの姿もありました。

改めて、地域の皆様の温かいご支援に感謝いたします。今後も、学校の教育活動を支えてくださるボランティアの方を募集していく予定です。ご興味のある方は、ぜひ学校までお問い合わせください。



体調管理のご協力をお願いします

先週あたりから、感染症や夏風邪などによる欠席者が増え、子どもたちの体調が心配な日々が続いております。

学校では、教室の換気をこまめに行い、手洗いやうがいの指導を徹底するなど、感染予防に努めております。



ご家庭でも、朝の検温や体調確認をいつもより丁寧に行っていただき、少しでも体調がすぐれない場合は、無理をせずご自宅で休ませていただくなど、お子様の健康管理にご協力をお願いいたします。

みんなが元気に学校生活を送れるよう、ご家庭と学校で連携してこの時期を乗り越えていきたいと思ひます。

